

かっこいい車いすを世に

株式会社オーエックスエンジニアリング

当社の前身は、オートバイのカスタムを行うショップで、創設者で現社長でもある石井重行がオートバイの転倒事故による障害で車いすが必要になったことから、車いすの開発を始めた。当初は、二輪事業の傍らで石井自身のためだけに車いすを製作していたが、海外の展示会に出かけた石井が、現地記者に車いすを高評価されたことから事業化を決意、既存の製品に囚われず、自らの望みに従った車いすを世に送り出すこととなった。しかし、当時の日本では、車いすは単なる福祉機器の一つでしかなく、デザインや機能性、耐久性は二の次であった。そこで石井は、フレームワークや塗装、小さなパーツに至るまでを自社において研究開発し、抜群の開発スピードで他社に先駆け斬新で機能的な車いすを次々と発表した。そして、石井自身の車いすに対する望みは、多くの車いすユーザーに支持されて現在のオーエックスブランドを構築するに至った。

世にある数々の生活用具は、使い勝手を第一とし、また、ユーザーの所有満足度を満たす外観に仕上げられているものである。それは、車いすにおいても同じで、ユーザーの身体や使用

目的に合っていること、そして、「かっこ良さ」や「美しさ」を感じさせるものでなくてはならない。オーエックスでは、日常用の車いすだけでなく、スポーツ用車いすの開発製造にも力を入れている。スポーツ用車いすの開発に重きをおくのは、まず、競技で勝つためには高性能であること、しかも日常用に求められるよりハイレベルな性能が求められる。そして、スポーツに使う以上は「速そう」「強そう」なデザインが求められる。それが機能性とデザインの融合、見るものに「機能美」を感じさせる製品を生み出し、また、そのスポーツ用で培った技術を日常用にフィードバックすることで、日々の生活において必要十分とされる性能を持った車いすを作ることができるのである。

車いすには、規格に沿った既製品と、オーダーメイドのものがあ、当社は全てがオーダーメイドによる受注生産となる。当社がターゲットとしている市場は、「アクティブユーザー」と呼ぶ、車いすユーザーでも特に活動的で、屋内はもちろん外出から仕事に遊びと使用環境が多岐にわたる人々であり、既製品の大きく重い車いすではなく、自分の身体にぴったり合った

軽量の車いすを欲している人々である。しかし、人間である以上、10人のユーザーがいれば10通りの身体の作りと状態があり10通りのオーダーが発生することになる。そこで当社では独自に考案した「A.T.O.方式」（フレームやパーツを組み合わせて注文する方式）を使い受注することで、ユーザーが自ら自分に合ったフレームやパーツを組み合わせて自分に合った車いすをオーダーできるようにしている。

車いすのフレーム製作は、アルミパイプをカットし曲げることから始まり、溶接、塗装、組立ての工程を経て完成する。当社では新潟にある工場で、パイプ加工から溶接、塗装、組立て、出荷までの全工程を一貫して行っており、また、フレームは各機種ごとに数種類のサイズが用意され、ストックされているため、オーダーメイドでありながら受注から約3週間という短納期を実現している。昨今は安価な海外製品に国内工業が押されているが、車いす製造業界も例外なく海外に製造拠点を移す企業も在る。しかし当社は、クオリティーコントロールの確実性と

利便性から製造における重要な部分は国内生産にこだわり、高品質な車いすを提供することに努めている。

かつて、オーエックスの車いすが世に出たときには、その先進的なデザインはもちろん、高価格であることも賛否を生んだ。当時は、車いすは公的補助の範囲内で購入するものであり、福祉機器であるにもかかわらず高価であることが業界に敬遠される原因にもなった。しかし、工業製品として高品質なものを追求すれば、あたりまえのようにコストがかかり、価格も上がるのである。福祉機器は安くなければならないという常識を打ち破り、ユーザーに支持されるだけの品質を確保する、それが車いす業界全体の改革にもつながった。そして、かっこよく機能的なものを世に送り出していくオーエックスの使命は、それを必要とする人がいる限り、これからも終わりにく続いていくのである。

千葉市若葉区中田町2186-1

TEL043-228-0777

